

## 視点(1804)

### マダガスカル猿の多様化とカスタマイズ理論とは!!

(思考と研究の概念編)

マダガスカル猿が特定の好みの食べ物が飽和状態になると、別の食べ物を食べるように進化して、結果的にはDNAが変化し多様な猿が出現する現象を「マダガスカル猿の多様化理論」と言います。SCも特定の適合したマーケットが飽和状態になると、別のマーケットを獲得するように進化して、結果的には業態が変化し、多様なSCが出現することを「SCの成熟化によるSC業態の多様化理論」と言います。マダガスカル猿もSCも、もともとは一種類あるいは一タイプでしたが、食べ物やマーケットの飽和・成熟により進化が起こり、多様化し、元の猿や元のSCとは同じ猿あるいは同じSCとは思えないような形態になります。しかし、猿の生態メカニズムやSCの成立メカニズムは形は変わっても元々は同じです。

マダガスカル猿の多様化の理論に基づきSCの多様化を比喩的に説明します(六車流:流通・マーケティング理論)。

アフリカ大陸から500kmの距離を漂流して一匹も猿の住んでいないマダガスカル島に到着した猿の一群は、密林の中に豊富かつ美味しい果実を食料に大いに数を増やし繁栄しました。ところが猿の増加とともに美味しい果実はこれ以上の猿を養うだけの量が限界となりました。この環境を食物の飽和状態といいます。

当然ながら、マダガスカル島の猿の数はこれ以上増えなくなりますが、マダガスカル島の猿は今まで主力としていた密林の中の美味しい果実だけでなく、木の実、木の葉、昆虫、草原の草を食べることにより、食物の量を拡大しました。さらに、マダガスカル島の猿は、危険な崖の草や毒のある木の実まで食物とすることにより数を増やしました。当然ながら、密林の中で美味しい果実を食べていた段階とは姿形は異なり、同時にDNAも変化し多様化しました。マダガスカル島の猿は、もともと一種のDNAから今は70種のDNAへと多様化へと進化(環境の変化に対応)しています。マダガスカル島の猿は環境の変化を自らのDNAを変え、多様化して対応して今日でも繁栄しています。

ではマダガスカル島の猿は、密林の中の美味しい果実以外は、おいしくなく仕方なく食べているのでしょうか。確かに最初は、美味しい果実に馴染んでいたもので、それ以外の食物はおいしいと感じていなかったかもしれません。しかし、特定の食物を長時間食べ続けるとその食物に馴染み、さらにその食物がおいしくなるようにDNAが変化します。それゆえに、マダガスカル島の猿は、それぞれの“種”の猿が食べている食物は、それぞれ“種”の猿にとって美味しいのです。しかし、このようになるまでには自ら自分が食べる食物が美味になるメカニズムをDNA的に体内に獲得しなければなりません。例えば、「危険な崖にある草」や「毒のある木の実」を食べるためには次の3つのプロセスが必要です。

- ①第1のプロセス「危険な崖にある草や毒のある木の実を食物にするための意識革命と挑戦する精神」
- ②第2のプロセス「危険な崖で自由に動ける体形や毒を解消させる胃や腸づくり」
- ③第3のプロセス「そして美味となる舌と脳づくり」

この3つのプロセスを「猿が特定の食物を美味とするためのカスタマイズ化」と言います。

このカスタマイズ化ができていないと、猿は崖から落ちて死に、毒を食べて死ぬこととなります。このカスタマイズ化が、マダガスカル島の多様化のためのノウハウなのです。

SC業界においても、SCの飽和期(ほぼSCが行き渡った段階)からSCの成熟期(SCの多様化の段階)に突入しています。SCは今までとは異なるマーケットを創造しなければなりません。そのためには、特定のマーケットにカスタマイズ化(あなたのためのSCづくり)が必要となります。このカスタマイズ化ができていないとシニア志向のSCが「日本中にシニアが増大している。商圏の中にもシニアが増大している。SCの来街者もシニアが増大している。それなのにSCの売上高は減少している」という現象が起こります。この現象は、マーケットがないのではなく、カスタマイズ化していないからです。

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup>  
代表 六車秀之